



〒344-0001

埼玉県春日部市不動院野1112-1

TEL048-760-1200

FAX048-760-1201

http://www.saintnoah.jp/kasukabe/

アニマート(音楽用語): 「活発な・生き生きとした」という意

病院短信

『身体拘束をしない病院』

この二月で、当院はオープンして十三年目に入りました。昨年(二〇一七年)の秋、精神科病院における「身体拘束」がマスコミで話題になりました。以下の記事は、読売オンライン二〇一七年九月二十五日に掲載されたものです。

《精神科、増える身体拘束…長時間縛られ心に傷》

日本の小中学校で英語を教えていたニュージーランド人の男性(二十七)が、精神科病院で身体拘束を受けた後急死した問題は海外でも大きく報じられた。

この十年で身体拘束が急増したのはなぜか。原因すら分からない現状を改めるため厚生労働省研究班による実態調査がようやく始まった。

日本で身体拘束を受ける患者は、二〇一四年六月三十日時点で、一万六千八百八十二人。十年前の約二倍になった。だが海外では身体拘束を避ける取り組みが進んでいる。

当院はオープン以来「身体拘束は一切しない」という基本姿勢を掲げ、今日まで貫いてきました。マスコミで話題になっている折り、「身体拘束はしない」という当院の基本姿勢に共感した日経メディカルという医学雑誌の取材を、昨年の暮れから受けています。スタッフ全員がアイデアを出し合って実践しているその取り組みに、取材記者は驚嘆の声を上げていました。追ってその取材記事は、同誌に掲載される予定になっています。

彼は主に緩和ケアを担当している記者でしたが、取材の時「厚生労働省は二〇一七年九月に、第七回「がん等における緩和ケアの更なる推進に関する検討会」を開催し、循環器疾患の患者に対する緩和ケアの提供体制の在り方を検討するワーキンググループの設置を決めました。当面は心不全に焦点を当て、慢性閉塞性肺疾患なども含めた慢性疾患の緩和ケアについて議論を進める方針です」と言っていました。つまり、今まで「がん」に限られていた日本の緩和ケアの対象を公的にも広げていこうとする趨勢にあるというのです。

前にも書きましたように、世界的に見ると「ホスピスケア(緩和ケア)IIがん患者のケア」は、もはや常識かつ時代遅れとなっています。イギリスでは英国緩和ケア学会で、高齢化する成熟社会の課題を、『認知症』とし、今後の主な研究対象を『認知症の緩和ケア』とする、とありました。米国では、ホスピスケアを受けた人の内訳は第一位がガン三十六・五%、次いで認知症十五・二%なのです(二〇一四年)。二〇二五年の認知症患者は七百万人(六十五歳以上の五人に一人)を突破する見込みです(厚生労働省の推計)。

これから激増する認知症の緩和ケアを目指す当院は身体拘束をしない病院として、さらに磨きをかけていきたいと思っています。



副院長 高野 正孝

看護のひろば



2病棟 看護師 高崎 千晶

まだまだ寒い日が続いていますが、風邪を引かずに元気で過ごされていますか？

寒さが直接の原因とはいえ難しいですが、2月は心血管系の病気や心筋梗塞発作、脳卒中が原因と推定される救急搬送が多い月です。

冬場の今だからこそ水分補給が大切。冬場は空気の乾燥により体表の水分が蒸発し、また喉の渇きも感じにくいので気付かないうちに水分不足になっている事も…。冬になって水分摂取量が減ってしまうのは「水分=冷たい物」という印象があるからではないでしょうか。そこでお勧めしたいのが『白湯』です。温かい飲み物と言えば緑茶やコーヒーが定番ですが、カフェインを含まない白湯なら利尿作用なく体を温められ一石二鳥。熱湯を冷ます事でまろやかな口当たりにもなります。

こまめな水分補給を心掛け、寒い冬を元気に過ごしたいですね。



いきいき介護



3病棟 介護福祉士 小田切 恵

各病棟ナースステーション前やホール内に立っている病棟職員を目にしたことがあるかと思います。その職員は患者さんの安全を守るための『見守り』の職員で、当院ではとても重要な業務の一つです。

患者さんの生活スタイルは様々で、患者さん同士お話をしたり、テレビを見たり、午前・午後のレクリエーションの時間にはみんなで体操や歌を歌ったりして毎日を過ごしています。そんな中、歩行が困難な患者さんが急にイスや車イスから立ち上がろうとした時は『見守り』職員が駆け寄り、転倒しないように対応します。また患者さん全員が夜眠れるとは限りませんので夜間も同じように注意深く見守っています。当院では職員同士が声を掛け合いながら24時間どんな時でもホールに職員がいるように徹底しています。転倒をゼロにすることは困難ですが、これからも職員同士協力し、患者さんが安全に生活していけるよう頑張っていきたいと思っています。



事務屋の独り言

常務理事 事務局長 瓦井 洋

『ベッド買い』

一体、何のことなのかお分かりにならない方も多と思います。実は特別養護老人ホーム(特養)に入所するための空きベッドのことなのですが、この空きベッド、つまり特養入所の優先権利を、特養の建設前に社会福祉法人(社福)と建設地の自治体以外の自治体が、一床あたり百万から二百万円で買い取る協定を結ぶことを言います。

特養は各自治体が社会福祉法人に補助金を出して建設させ、運営もさせます。従って我々のような医療法人には建設も運営も許可されません。(もともと私自身は特養をやりたいなんて一度も思ったことはありませんけどね)

実はこの「ベッド買い」、かなり昔から関係者の間では話に上っていましたし、ある意味常識化?してしまっていたので、関係者の間ではそれほど意識は無かったのかも知れません。しかし既に十七年前の〇二年七月には地裁で違法判決が出ていたのです。それなのに自治体は止めようとしませんし、厚生省も口をつぐんで見て見ぬふりをしていました。

皆さんはもうとっくにご存知でしょうが、特養には入所希望待機者が、現在でも三十六万人以上もいます。そしてその数は今でも増え続けているのです。ここ数年、政府の肝いりで特養を増やそうという機運が高まったこともありましたが、それも現在ではしりすぼみ、入所待機者は相変わらずです。

そうそうこんなこともありました。何年前か、この特養を医療法人にもやらせようという話もあったのです。そして私のところにも特養をやらなにかという話が舞い込みました。私は特養運営のすっきりしない部分があることも承知していましたが、丁重におことわりしましたけど…。

でもやっぱり厚生労働省は医療法人にはやらせたくなかったのでしょね。いつの間にかその話も立ち消えになってしまいました。

ではなぜこんな「ベッド買い」などが行われているのでしょうか。

まず特養には建設する土地や建設費、および設備費等で十数億(概ね百床で)というお金がかかります。このお金、建設を許可する自治体も補助金を出しません。しかし最近では自治体も資金不足が顕著ですから以前ほどの補助金を出しません。ですから当然、社福も資金集めに苦労するわけです。この資金集めの一つとして他の自治体からの「ベッド買い」があるともいわれています。例えば東京二十三区内を例にとれば、土地が高すぎて社福も自治体も手に負えません(都や区が土地を提供すれば別ですが)から、特養を造れません。そこで区は地方の自治体に社福が特養をつくらせると聞けば入所ベッド優先枠を十ないし二十ベッド程度を買いに行く、とまあこんな筋書きです。つまり自分の自治体で特養を造るより入所ベッド優先枠を買い取った方が安上がりという訳なのです。各自治体も住民のニーズは高まるばかりですし、さりとて建設もままならない…。ベッド買いもある意味、必要悪なのかもしれません。数年前、特養にも介護保険制度が導入され、以前よりも入所費用は高額になりました。しかも介護度が三以上でないと入所できないようになりました。でもまだまだ医療法人の運営する「老健」よりも安いことは事実ですから入所希望者は後を絶たないのが現実です。

本来、特養は福祉の分野だと私は思います。つまりこの施設は国が税金を使ってでも運営すべきなのです。今後ますます高齢化が進むこの国での老人福祉。一体どこに行くのでしょうか。





新春初詣

みんなで詣ろうセントノア鶴亀神社。
立派な鳥居がお出迎えです。



ガブリ、ガブリ、またガブリ～！
今年もやってきました。
皆さんにご利益がありま
すように◎
全員しっかりと噛ませて
いただきました！



獅子舞演舞



今年一年元気に過ごせますように。
皆さん順番にお詣りです。
パンパン、ペコリ。



近くで見ると結構怖いか
も…。
かなりの迫力です！



お囃子に合わせて軽快に舞い踊
ります！

ピーヒャラ♪ピーヒャラ♪

沢山の拍手、ありが
とうございました
～！！

おみくじの結果は…？
見事大吉～！
おめでとうございま～す！



さらさらコーナー

何これ？白くて冷たくて美味
しいのが庭一面に…！
何故か突然走り回りたくなっ
ちゃう
ダッシュ！モグモグ…ダッ
シュ！モシャモシャ…
くっつ、雪って最高！

作業療法室だより

作業療法士
小島 大輔

年が明けてから早1ヶ月が過ぎてしまいました。もうすぐ暦の上では春というのが信じられないような朝晩の冷え込みが続くこの頃です。さて、今年初めての作業療法室だよりはそんな寒さも吹っ飛ばすような心暖まる『転倒予防の会』の事をお話したいと思います。この会はメンバー8人くらいで、筋力維持を目的として主に下肢の運動をした後に、みんなでテーブルを囲み休憩がてら話をしながらお茶やコーヒーを楽しむ…といった会です。患者さんの中には運動をしながら「昔は米一俵担いだんだ！」と力こぶを見せる方や、普段はうつむいている事が多いのに運動になると笑顔で大きく足を上げて取り組む方など、生活の中とは一味違った顔を見ることが出来ます。中でもメンバーにとってお茶やコーヒーは特別な時間のように、みんな笑顔で「幸せ」「温かくて美味しいわ」と話しながら飲んでいきます。会話の中では時々愚痴が出てしまう事も。でも、そんな仲間と周りのメンバーは優しく「大丈夫、元気出して！」「僕たちもいるからね」と声を掛ける微笑ましい姿を目にします。“十人十色”という言葉がありますが、人はそれぞれの個性も違えば病気の程度も異なります。そうした方が50人以上同じ空間で生活していれば、毎日が順風満帆とは行かないかもしれません。でも困った時はお互いを支え合う仲間がいます。作業療法の場がそんな人と人とを繋ぐ支え合いの場になれば嬉しく思います。



スタッフ紹介

3病棟 介護福祉士
とつか ゆうと
戸塚 雄斗
星座：しし座
血液型：AB型
好きな食べ物：梨



セントノア病院に入職して5年が経ちました。陸上が好きで、毎年世界陸上を見るのが楽しみです。弟が高校生で陸上をやっている大会を見に行ったりするのですが、見ていると昔を思い出して自分も陸上をやりたいくなります。今は運動はしていませんが、これから体を動かす事の出来る何かを見つけられたらと思います。



2月の予定

- ◆節分 2日(金) 14:00～ 各病棟デイルームにて
- ◆おやつパーティー 26日(月) 14:45～ 各病棟デイルームにて
- ◆誕生日会 14:00～ 各病棟デイルームにて
 - 1病棟：19日(月)
 - 2病棟：13日(火)
 - 3病棟：2日(金)

